

可燃ごみ減量講座

第1部 ～紙・布編～

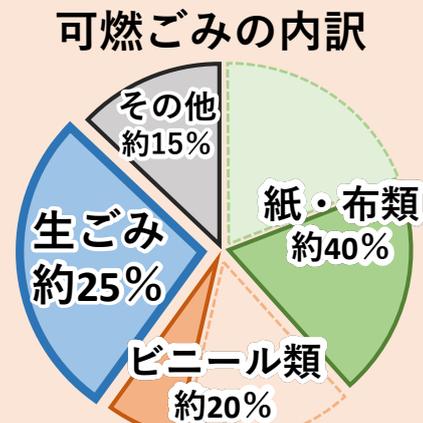
第2部 ～プラスチック製容器包装編～

▶ 第3部 ～生ごみ編～

生ごみも減らすことができるの？

分別を徹底することで「紙・布類」は約半分、「ビニール類」は約4分の3を減らせますが、生ごみも減量とリサイクルが可能です。

まずは生ごみの発生量を減らし、最終的には生ごみ処理機などを使ったリサイクルを目指しましょう。



どうやって取り組めばいいの？



① まずは「**食品ロス**」を削減して、発生する生ごみの量を減らしましょう。



② 燃えるごみで出す場合は、「**水切り**」をして水分を減らしましょう。



③ コンポストや生ごみ処理機などを使って処理することもできます。



「食品ロス」ってなに？

食品ロスとは、本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことです。「**食べ残し**」「**直接廃棄**」「**過剰除去**」を減らし、食品ロスを削減しましょう。

食品ロスの原因

食べ残し

料理を食べ切れずに捨てる

直接廃棄

消費期限切れなどで未使用のまま捨てる

過剰除去

皮の剥き過ぎなどで食べられる部分まで捨てる

食品ロス削減のコツ

- 【**買いすぎない**】 買い物前に冷蔵庫をチェックして計画を立てる
- 【**使いきる**】 冷蔵庫を見やすく整理して食材のムダを減らす
- 【**食べきる**】 食べきれぬ量を作り、残った料理はリメイクして食べる

食品ロスに関する様々な情報を市のホームページで紹介しています。



「水切り」って効果があるの？

生ごみの60～70%は水分で、ギュッとひと絞りするだけでも10%の減量効果があります。

乾かすことで、ごみの減量になるだけでなく、臭いを減らすことにもつながります。

水切りのポイント

- 【**濡らさない**】 野菜は洗う前に皮をむく
- 【**乾かす**】 一晩おいてから袋に入れる
- 【**しぼる**】 捨てる前にぎゅっとしぼる



生ごみを自分で処理するには？

屋外などで使うコンポストのほか、熱を使った「乾燥式」や微生物で分解する「バイオ式」などの生ごみ処理機があります。

堆肥を作ることができるものもあるので、自分のライフスタイルにあわせて選んでみましょう。



©袋井市

ごみの分別・リサイクルを市民全員が徹底すれば、可燃ごみは半分以上減らすことができます。

「誰かがやる」ではなく「自分がやる」ことで可燃ごみを減らしていきましょう。